

MURC 政策研究レポート

外国人旅行者の購買動向にかかる定点観測調査 (平成22年12月)

株式会社インジェスターとの共同企画により毎月実施してきた「外国人旅行者の購買動向にかかる定点観測調査(平成22年12月)」について、その結果概要を紹介する。

【結果概要】

回答のあった旅行者の状況について(不明者を除いた比較)

1. 回答者数は139名で、前月428名から大幅に減少した。1日あたり12.6名で、前月39.5名から68.1%減である。
2. 性比(*1)は139で、前月の134に比べて男性比率が微増したもののほぼ横ばいである。
3. 平均年齢(*2)は38.6歳で、前月の41.4歳に比べ大きく若年齢化した。
4. 回答者に占める中国人比率は45.7%で、前月の45.1%から下げ止まり、ほぼ横ばいとなった。

旅行者の旅行行動について(不明者を除いた比較)

1. 主な渡航目的は「観光」68.8%、「業務」30.2%、「乗継」1.0%で、「乗継」利用者が激減した。
2. 渡航目的「観光」の旅行者のうち団体旅行者は47.6%であり、前月の47.0%からほぼ横ばいである。
3. 訪問先は「銀座」が48.9%で1位となり、本調査がはじまって初めて上位5位の順位が変動した。不動の1位であった「秋葉原」は38.3%で2位である。3位、4位は「新宿」36.2%、「浅草」25.5%で変わらなかったが、「六本木」が19.1%で初めて上位5位に入り、「お台場」は14.9%と数値を大きく落とした。

旅行者の購買動向について(不明者を除いた比較)

1. 空港免税店で何らかの商品を購入した人は91.4%であった。観測場所の関係から、商品購入率は高くなっている。
2. 購入商品の使用目的は自分用56.5%、お土産用44.4%で、先月と比較して自分用の商品を購入する割合が大幅に減少した。

今月のトピックス:

1. 時系列でみた外国人旅行者の推移

20歳代を中心に若年層の比率が高まってきており、平均年齢も下がりつつある。

2. 人気観光地、「銀座」が「秋葉原」を逆転

ほぼ全数が観光目的旅行者で占められる「秋葉原」に比べ、一定程度は業務目的旅行者の訪問がある「銀座」では外国人旅行者が減少した場合でも、ある程度は安定した来客が見込まれる。

*1 性比 = 男性数 / 女性数 × 100

*2 20歳代以下は24.5歳、30歳代は34.5歳、40歳代は44.5歳、50歳代は54.5歳、60歳代以上は64.5歳を代表年齢として算出。

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

政策研究事業本部(東京)公共経営・地域政策部 主任研究員 妹尾 康志
研究員 中田 雄介

〒108-8248 東京都港区港南 2-16-4

TEL: 03-6711-1242 / FAX: 03-6711-1290

外国人旅行者の購買動向にかかる定点観測調査 (平成 22 年 12 月)

株式会社インジェスターとの共同企画による「外国人旅行者の購買動向にかかる定点観測調査(平成 22 年 12 月)」の概要は、下記の通りである。

【実査概要】

観測期間:平成 22(2010)年 12 月 17 日~12 月 27 日 11 日間

観測方法:スタッフによる対面式聞き取り

観測対象:出国予定の外国人旅行者

観測場所:成田空港

回答者数:139 名

担 当:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(設計および分析)

株式会社インジェスター(実査および集計)

【結果概要】

回答のあった旅行者の状況について(回答不明者を除いた比較)

1. 回答者数は 139 名で、前月 428 名から大幅に減少した。1日あたり 12.6 名で、前月 39.5 名から 68.1%減である。
2. 性比(*1)は 139 で、前月の 134 に比べて男性比率が微増したもののほぼ横ばいである。
3. 平均年齢(*2)は 38.6 歳で、前月調査の 41.4 歳に比べ大きく若年齢化した。
4. 回答者に占める中国人比率は 45.7%で、前月調査の 45.1%から下げ止まり、ほぼ横ばいとなった。

旅行者の旅行行動について(回答不明者を除いた比較)

1. 主な渡航目的は「観光」68.8%、「業務」30.2%、「乗継」1.0%で、「乗継」利用者が激減した。
2. 渡航目的「観光」の旅行者のうち団体旅行者は 47.6%であり、前月の 47.0%からほぼ横ばいである。
3. 訪問先は「銀座」が 48.9%で 1 位となり、本調査がはじまって初めて上位 5 位の順位が変動した。不動の 1 位であった「秋葉原」は 38.3%で 2 位である。3 位、4 位は「新宿」36.2%、「浅草」25.5%で変わらなかったが、「六本木」が 19.1%で初めて上位 5 位に入り、「お台場」は 14.9%と数値を大きく落とした。

旅行者の購買動向について(回答不明者を除いた比較)

1. 空港免税店で何らかの商品を購入した人は 91.4%であった。観測場所の関係から、商品購入率は高くなっている。
2. 購入商品の使用目的は自分用 56.5%、お土産用 44.4%で、先月と比較して自分用の商品を購入する割合が大幅に減少した。

*1 性比 = 男性数 / 女性数 × 100

*2 20 歳代以下は 24.5 歳、30 歳代は 34.5 歳、40 歳代は 44.5 歳、50 歳代は 54.5 歳、60 歳代以上は 64.5 歳を代表年齢として算出。

【集計結果】(*1)

1. 旅行者に関する観測結果

→ 性別

n = 139	男性	女性	不明
	79	57	3
比率	56.8%	41.0%	2.2%
不明者を除いた比率	58.1%	41.9%	-

→ 年齢別

n = 139	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	不明
	21	44	46	20	3	5
比率	15.1%	31.7%	33.1%	14.4%	2.2%	3.6%
不明者を除いた比率	15.7%	32.8%	34.3%	14.9%	2.2%	-

→ 国・地域別

n = 139	韓国	中国	台湾	その他 アジア	欧米	その他	不明
	20	58	10	19	10	10	12
比率	14.4%	41.7%	7.2%	13.7%	7.2%	7.2%	8.6%
不明者を除いた比率	15.7%	45.7%	7.9%	15.0%	7.9%	7.9%	-

2. 旅行行動に関する観測結果

→ 主な訪日目的

n = 139	観光	業務	乗継	不明
	66	29	1	43
比率	47.5%	20.9%	0.7%	30.9%
不明者を除いた比率	68.8%	30.2%	1.0%	-

→ 訪日目的が「観光」の場合の旅行形態

n = 66	個人旅行	団体旅行	不明
	33	30	3
比率	50.0%	45.5%	4.5%
不明者を除いた比率	52.4%	47.6%	-

→ 日本での訪問先(複数回答可)

n = 139	銀座	秋葉原	新宿	浅草	六本木	上野	不明
	23	18	17	12	9	8	92
比率	16.5%	12.9%	12.2%	8.6%	6.5%	5.8%	66.2%
不明者を除いた比率	48.9%	38.3%	36.2%	25.5%	19.1%	17.0%	-

【少数意見】

お台場7、東京タワー7、渋谷4、原宿・明治神宮3、横浜3、京都2、大阪2、箱根2、東京ディズニーリゾート1

3. 購買行動に関する観測結果

→ 空港免税店での購買行動

n = 139	購入した	購入していない
	127	12
比率	91.4%	8.6%

→ 購入予定商品の有無

n = 139	はい	いいえ	不明
	111	15	13
比率	79.9%	10.8%	9.4%
不明者を除いた比率	88.1%	11.9%	-

→ 商品の購買目的(複数回答可)

n = 127	自分用	お土産用	その他	不明
	70	55	1	3
比率	55.1%	43.3%	0.8%	2.4%
不明者を除いた比率	56.5%	44.4%	0.8%	-

(お土産用の内訳:複数回答可)

n = 139	家族用	友人用	同僚用	不明
	27	17	5	94
比率	19.4%	12.2%	3.6%	60.5%
不明者を除いた比率	60.0%	37.8%	11.1%	-

*1 端数調整の関係で、比率の合計は100%にならない場合がある。

【今月のトピックス】

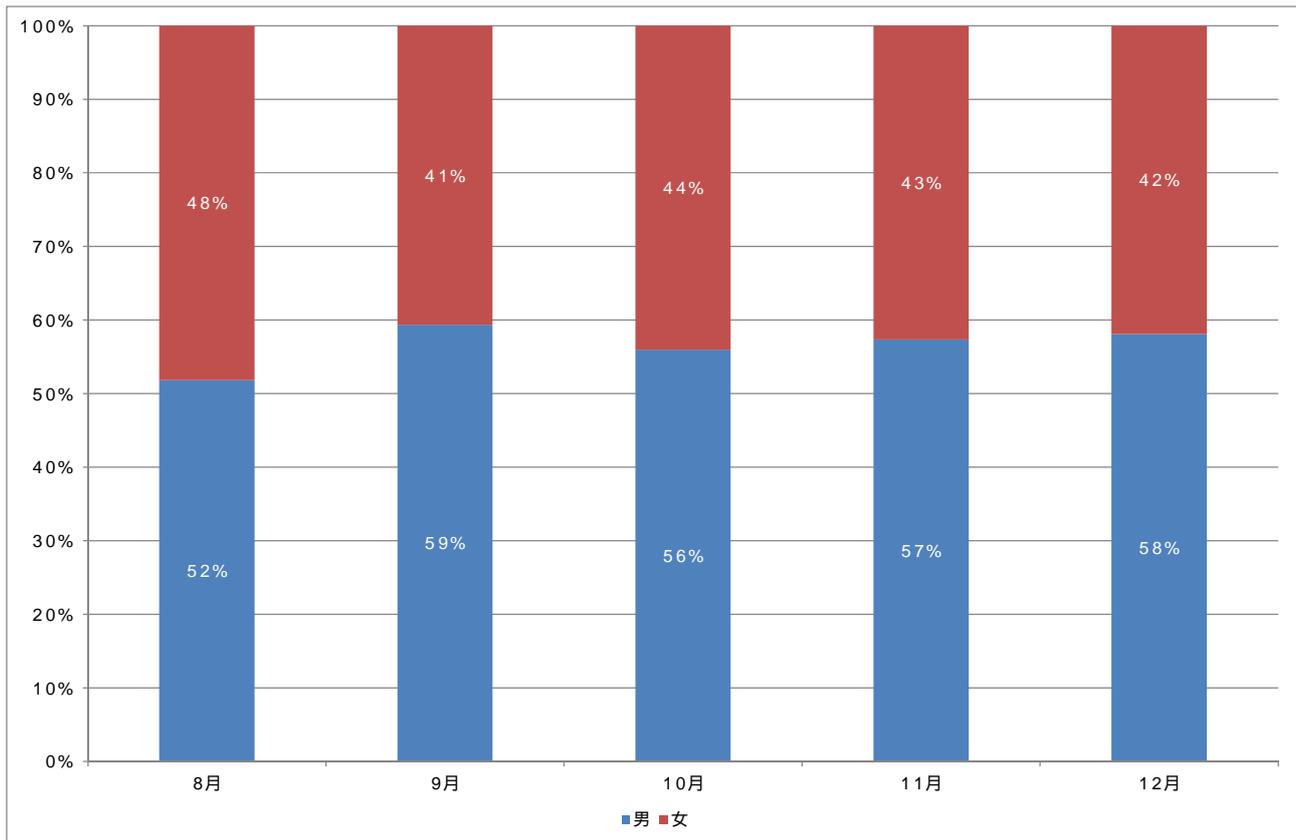
1. 時系列でみた外国人旅行者の推移

平成 22 年 8 月の調査開始以来、5 時点の観測値が蓄積されたことを受け、観測期間における外国人旅行者の推移、変化について紹介したい。ただし、平成 22 年 8 月調査はプレテストであり、調査項目その他に違いがあったことから、他の月に比べてやや特異な結果を示していることが多いため、他時点の数値とあわせてみる場合には参考として理解いただきたい。

性別：ほぼ安定して男性がやや多い

性別の推移をみると、プレテストであった 8 月はやや特異な構造を示しているが、調査箇所が固定化された 9 月以降の本調査では性比は非常に安定し、男性がほぼ 55%～60%程度とやや多い数値で推移している。

図表 調査対象者における性別の比率の推移



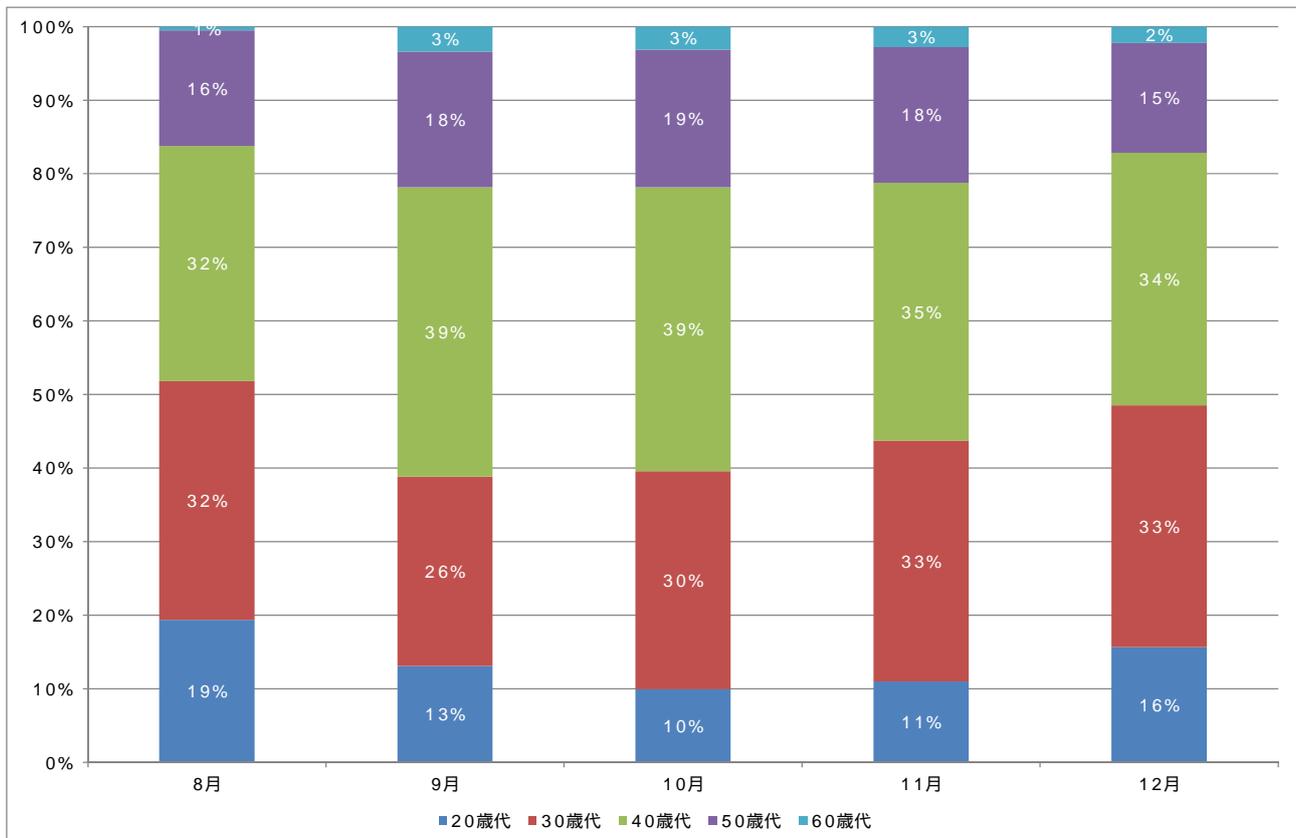
注釈) 当該設問に対する回答不明者は除いて集計した。

年齢別：じわじわと増加してきた若年層

一方で年齢別の推移は大きく変動している。こちらもプレテストであった8月は、他の月に比べてやや特異な構造を示しているが、9月以降の本調査では徐々に20歳代、30歳代の比率が高まりつつある様子がうかがえる。40歳代、50歳代については比率が低下してきているが、60歳代以上は大きな変動がなく、絶対数は少ないながらも比率としては安定している。

全体に外国人旅行者の主力が40歳代以上から30歳代以下へと変わりつつあり、特に50歳代が減少した分20歳代が増加していることから、平均年齢も40歳代前半から30歳代後半へと低下してきた。

図表 調査対象者における年齢別の比率推移



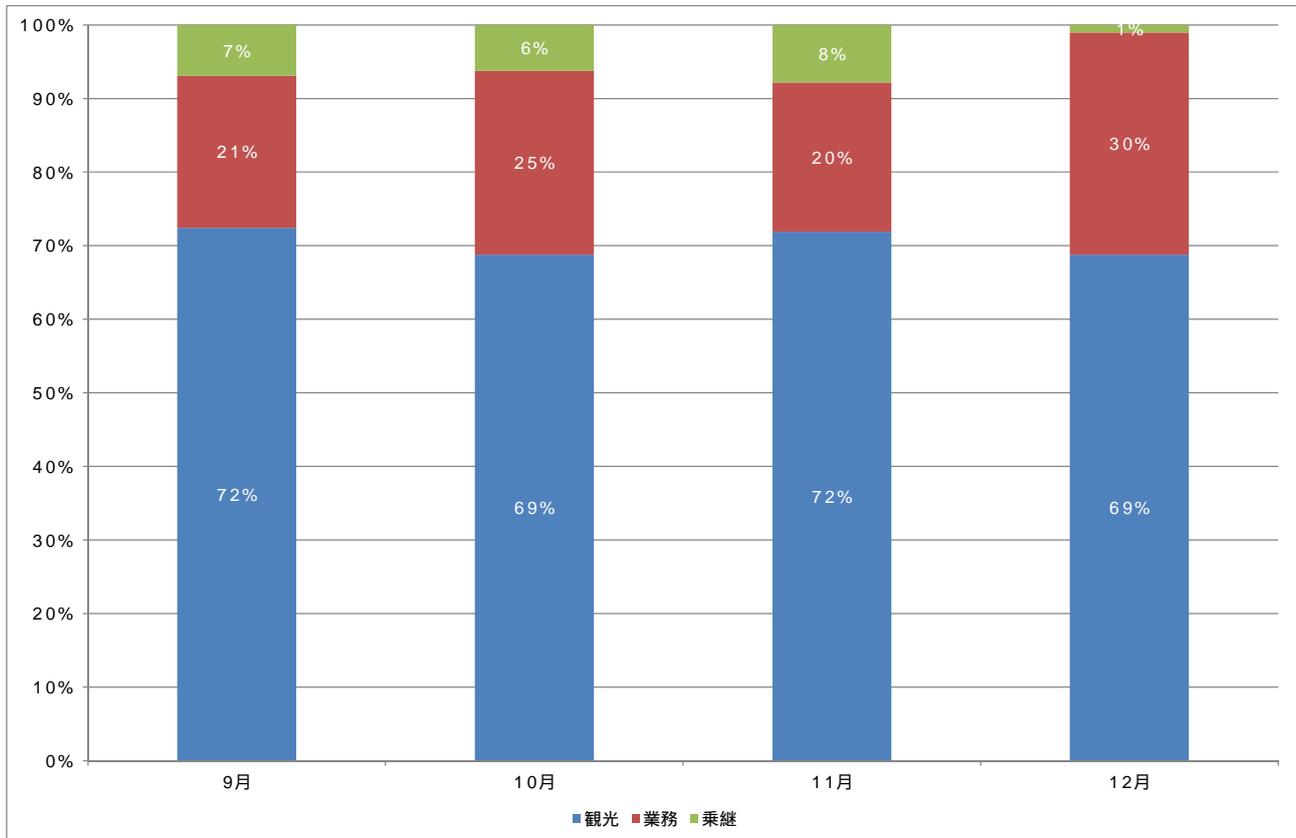
注釈) 当該設問に対する回答不明者は除いて集計した。

旅行目的別：観光目的旅行者が7割を占める状況は変わらず

旅行目的別の推移をみると、観光目的の旅行者が70%前後、業務目的の旅行者が20%強を占めて、ほぼ安定的に推移している。日本政府観光局(JNTO)による目的別訪日外国人旅行者数(訪日外客数、平成22年)でも観光客が70.1%、商用客17.6%と、定点観測調査による数値とほぼ同様である。

ただし、12月調査では乗継目的の旅行者が激減したことに対応して業務目的の旅行者が増加し、30%近くに達している。標本数が他月に比べてかなり少なかったため、乗継目的の旅行者が本当に減少したのか、観測地点を通過する機会がたまたま少なく捕捉できなかったのかは判断が難しい。可能であれば、翌月や前年または翌年同月データ等と比較することで12月(または年末年始)に乗継客が減少する傾向があるのか、あるいはそうでないのか等を明らかにすることが望ましい。

図表 調査対象者における旅行目的別の比率推移



注釈) 当該設問に対する回答不明者は除いて集計した。

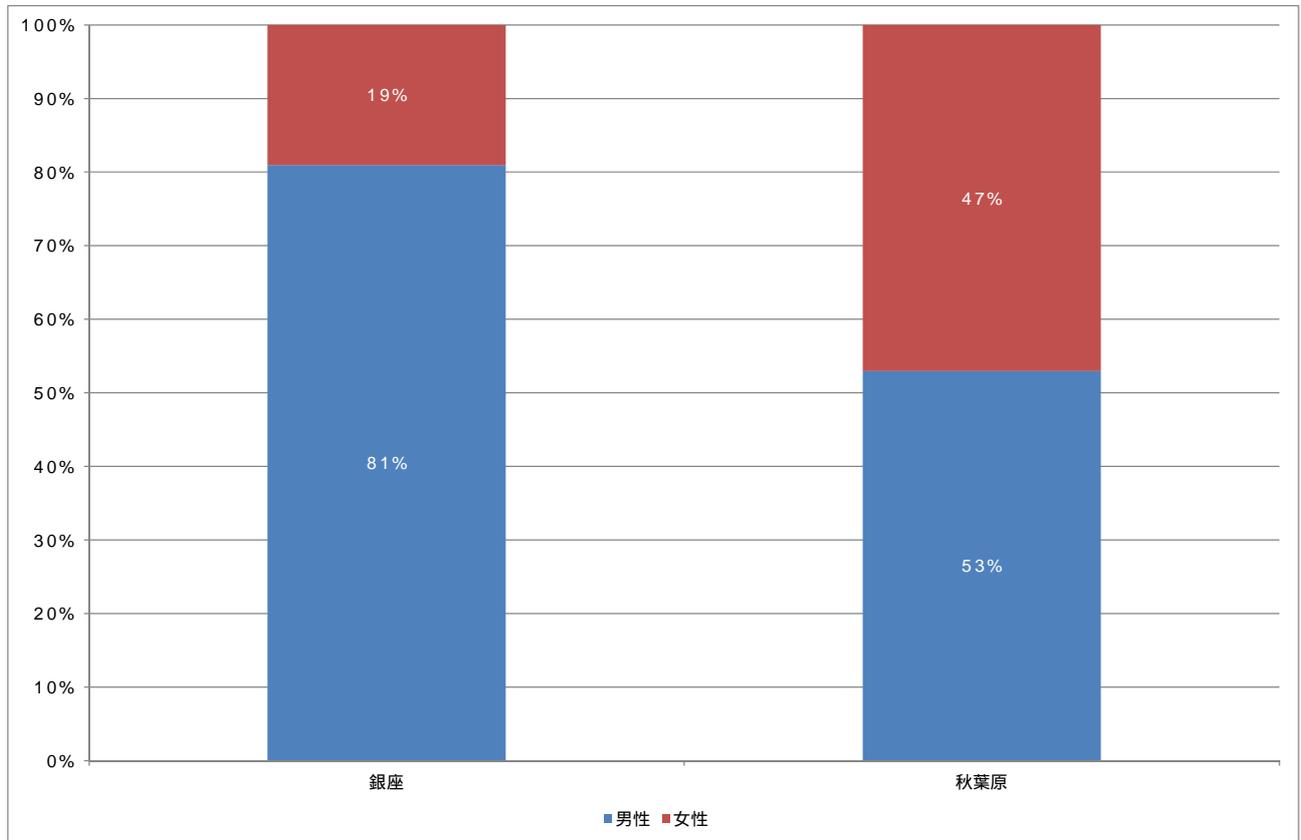
2. 人気観光地、「銀座」が「秋葉原」を逆転

12月調査では、これまで安定した人気を誇ってきた「秋葉原」が、「銀座」に人気観光地1位の座を明け渡した。既に紹介したような乗継目的の旅行者が激減した事象と同様、これが継続的な傾向として定着するのか、年末年始に日本を目的とした旅行者が増加したことなどを理由とした一時的なものであるのか、それとも標本数が少なかったための誤差によるものなのかは、翌月や前年または翌年同月データ等と比較することで明らかにすることが望ましい。

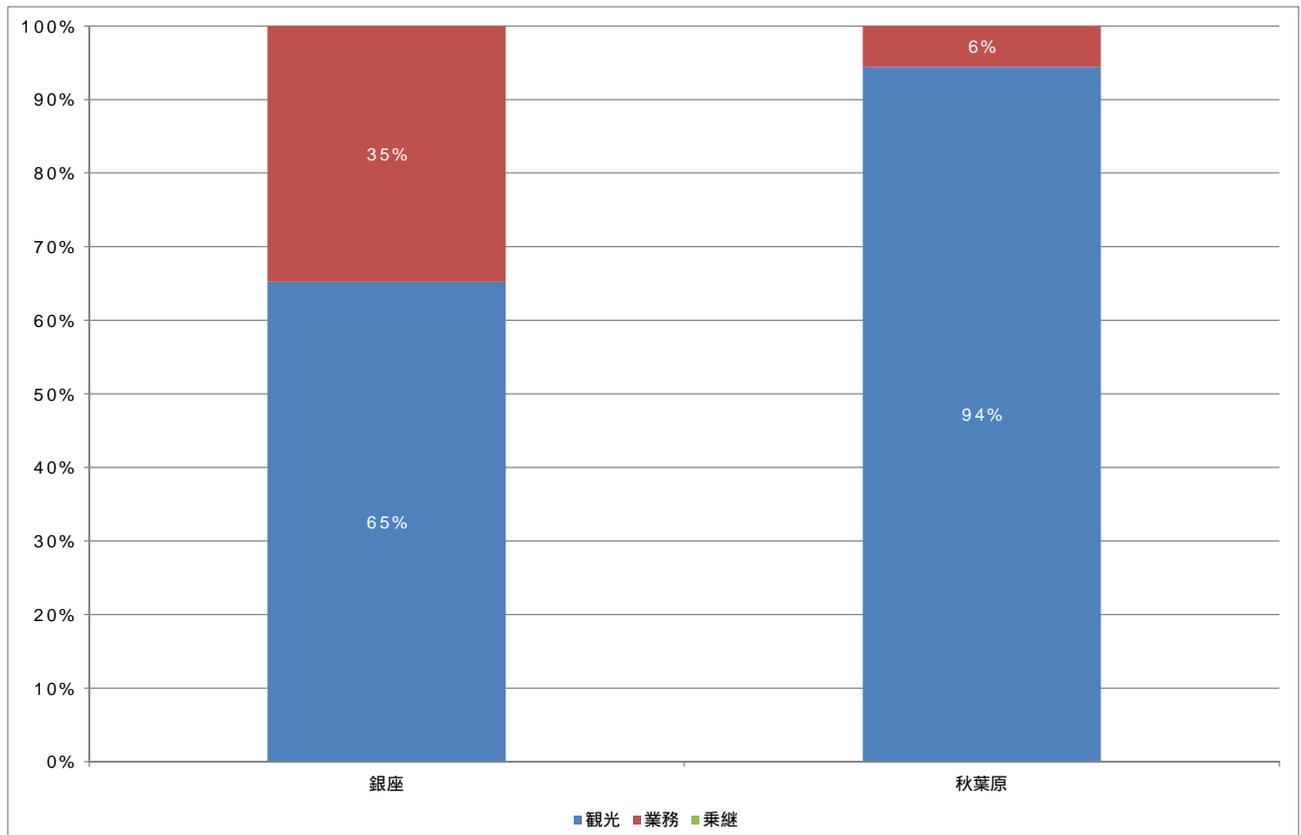
そこで、「秋葉原」と「銀座」の訪問者属性を調べたところ、性別と旅行目的別で大きな差異がみられた。旅行目的別でみると、「銀座」は観光目的が65%で全体的な傾向である7割前後からさほど外れていないが、「秋葉原」は観光目的が94%と非常に特徴的な構造を示し、観光客数が減少した場合に影響が大きいと考えられる。

性別でみると、「秋葉原」の訪問者は男性が5割程度であるのに対し、「銀座」では男性が8割を占めている。全体的な傾向としては男性比率が6割程度であるが「銀座」では業務目的の旅行者が平均以上に含まれているために男性比率が高めに出る一方で、観光目的の旅行者が中心の「秋葉原」では女性比率が高くなる場合もあると考えられる。ただし、11月調査では「秋葉原」は圧倒的に男性人気が高かったこともあり、団体旅行者の動き等によって今後も変動が見込まれるので、引き続きデータの蓄積が求められる。

図表 「秋葉原」と「銀座」の訪問者における性別比較



図表 「秋葉原」と「銀座」の訪問者における旅行目的別比較



注釈) 当該設問に対する回答不明者は除いて集計した。

【定点観測調査の終了にあたり】

平成 22 年 8 月期からの毎月、株式会社インジェスターとの共同企画として「外国人旅行者の購買動向にかかる定点観測調査」(以下、定点観測調査)の結果を発表してまいりましたが、調査を終了したいとの同社よりの申し入れを受け、この 12 月期分をもって、発表を終了させていただくことといたしました。

定点観測調査を公表することで、さまざまなお問い合わせやご相談、また励まし等のご意見を賜ることができ、大変うれしく思っています。この度の調査終了は誠に残念ではございますが、弊社では、今後も観光分野にかかるさまざまな取組に積極的に携わってまいり所存ですので、引き続きのご支援をいただくと幸いと存じます。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所を三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社および株式会社インジェスター共同企画「外国人旅行者の購買動向にかかる定点観測調査」と明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。